

ごみ減量事業に一丸

若松 一般廃棄物協組が発足

会津若松市の一般廃棄物処理業者でつくる市一般廃棄物協業組合が二十九日、発足した。ごみ収集袋の有料化や運搬車の共同運行などで、一般廃棄物の減量化を目指す全国初のモデル事業を担う。

モデル事業は、樋口良之福島大共生システム理工学類助教や市内の処



事業の概要を説明する樋口助教(左)

理業者でつくる会津環境保全研究会が十月から十二月まで市内で実施す

る。組合は来年以降、事業を継承する。

設立総会は市内のホテルニューパレスで開かれ、理事長に渡部豊一ハヤ社長(大ミ)を選んだ。排出業者らへの事業説明に引き続き、収集袋のマークをデザインした市内の城西小二年武田真奈さんらに対する表彰も行われた。

事業では、一枚百五十円程度の収集袋を使用し、排出業者の減量化への意識を高める。運搬車の共同運行は収集効率を高める。